



定期試験を間近に控え、何となく落ち着かない感じの学生もいるようですが、いかにお過ごしでしょうか。法学類月報第 32 号では、足立英彦先生のご紹介、みずほ財団懸賞論文入賞のレポート、法学類プロモーションビデオ近日公開のお知らせをお送りします。



◆連載◆ 法学類の先生 第 29 回 足立英彦先生（法理学）

教員紹介シリーズの最後を務めます足立です。自己の責めによらない属性に基づく取り扱い是不正義です。姓は自己の責めによらない属性です。したがって、教員紹介の投稿順序を姓の五十音順にしようという提案に私は反対しました。この反対意見が幸い受け入れられ、山本先生とジャンケンをして勝ち、山本先生（や行）が初回、私（あ行）が最後となりました。

不正義な取り扱いの他に、自由が制限されることも好みません。ここでいう自由は、自分のすべきことを自分で決められること、すなわち自己決定の権限という意味での自由です。今年度より金沢大学では共通教育の制度が大幅に変わりました。200～300 ほどあった科目（テーマ別・一般科目）が 30 科目（GS 科目）に減り、全学の教員ではなく特定の教員が同一科目・同一内容の授業をそれぞれ複数開講することになりました。自由を愛する私にとっては、学生の選択肢を減らし（何のための総合大学なんでしょうか）、担当教員から教科書選択権限・授業内容決定権限を奪うこのような制度は耐え難く、憲法が保障する「学問の自由」にも反すると考えますので反対しましたが、これは受け入れられませんでした。

次のような反論があるかもしれません。学生も教員も、金沢大学に属することを選んだことによって、自らの自由が制限されることに同意したのだ、と。これは、自由は自らの自由を制限する自由を含意するののかという問題の一例です。このような問題に関心がある方は、ぜひ私の授業を履修してください。申し遅れましたが、私の専門は法理学です。近代法を支える「正義」や「自由」といった基本原理を扱っています。

第 57 回みずほ学術振興財団懸賞論文コンクール（法律・学生の部）受賞



今回佳作をいただいた論文は、監査役が善管注意義務に違反したか否かを判断する枠組について検討したものです。取締役の善管注意義務と経営判断原則の関係

とは異なり、監査役が具体的にどのような義務を負い、どのような審査基準で義務の充足が判断されるのかをテーマにしました。

テーマ設定とは問題意識の提起であり、論文の起点となる大切な工程です。白紙の状態から問題点を見つけ、何となく仮説のようなものをイメージしていきますが、問題点を正確に言い表そうとすると、かえって自分が何を言いたいのか分からなくなりました。そんな時は永江先生から指導をいただき、私が言いたいと思っていることと、実際に相手に伝わる内容には、想像以上の隔たりがあることが分かりました。自分の考えと実際の伝わり方の溝を認識し、私自身が何に問題意識を持っているのかを正確に把握できたこと、論理のプロセスを何度も作り直しながら確認を繰り返したことが、今回の受賞に繋がったと思います。

社会人となった現在も、お客様のご用件を上司に伝えたり、他部署の方に書類の取り扱いを問い合わせたりと、口頭・文書、様々な形で人に考えを伝える機会があります。「想像以上

に伝わらない」ことを体感し、それを伝えるべく、言葉を練り直す作業を繰り返し、日々の生活・業務上での言葉と論理の重要性を理解する。この経験は、今も続いています。

現役の学生の皆さんも、そのような体験に触れる機会を大切に、日々の講義の中から疑問を見つけることを意識した学生生活を送っていただきたいと思います。

高橋昂汰（平成28年3月法学類卒業）



法学類プロモーションビデオ近日公開！

お知らせ

法学類広報委員会では、学生の協力を得て、法学類プロモーションビデオ「**金沢大学法学類 One Day on the Campus**」を制作しました。これまで法学類の広報媒体は、広報誌や Web ページ、そして法学類月報のように、文章や画像が中心となっていました。これによって新たに動画が加わったこととなります。法学類生自身の目線からみた、日常的な生活の場であるキャンパスの様子、授業やゼミの雰囲気、十二分にお伝えできる内容に仕上がっていますので、学内外を問わず、皆様にぜひご覧いただければと思います。なお、本誌ではプロモーションビデオ完成を記念して、次号では制作にあたった学生によるレポートを特集します。



人事のお知らせ

法学類学務係の田中里実さんが、7月1日付で、理工系事務部学生課に異動となりました。

法学類HP
へGO!



- 法学類の学生、卒業生、教員に関するイベント等の情報を、ぜひお寄せください。
- 関係者の皆様のご寄稿を歓迎します。採用された方には、法学類グッズを進呈します。
- 本誌のバックナンバーは、金沢大学法学類 Web サイトに掲載していますのでご覧ください。<http://law.w3.kanazawa-u.ac.jp//category/brochure/geppo>
また、メールでの定期配信（無料）をご希望の方は、金沢大学人間社会系事務部学生課 法・経済学務係 (n-hkgaku@adm.kanazawa-u.ac.jp) までお申し込みください。
- お読みになってのご意見ご感想は、上記メールアドレスまでお寄せください。